

ICA執行委員会開催記念講演会の開催にあたり

国立公文書館 菊池 光興

国立公文書館長の菊池でございます。本日はご多用中にもかかわらずICA執行委員会開催記念講演会“世界の公文書館は今”の会合にご来場賜り御礼を申し上げます。今回の講演会は、いま話がありましたように私が副会長を務めております国際公文書館会議（ICA）の執行委員会の東京開催と合わせて、また明日開催いたします日本の全国公文書館長会議の日程と合わせて開催することとしたものでございます。

ICA執行委員会および全国公文書館長会議の皆さん方にここに参加していただいたことに感謝申し上げます。

さらに、本日の講演会の開催にあたりまして、後援をいただき、またこの会場を拝借いたしております国際交流基金に対して厚く御礼を申し上げます。この講演会は、普段なかなか耳にする機会がない世界各国の公文書館事情をそれぞれの責任者から直接お話をいただくことにしております。最初にICAの会長でもございますオーストリア国立公文書館長、ドクター・ミコレツキーにICAとは何か、ICAの目指すところは何かということについて簡単にご紹介いただきます。

その後スイス・ジュネーブ市の市立公文書館長のグランジェさん、アフリカ・ボツワナの国立公文書館長・ハビさん、太平洋島嶼国を代表いたしましてフィジーのタレさんにそれぞれお話をいただくこととなっております。予定どおりですと、休憩をとった後にICAの事務総長をやっておりますアルバダさんに、公文書館が過去と未来の架け橋として



どのような役割を果たしていくかということについてお話をいただくことになっております。

世界各国の公文書館は我が国に劣らずたいへん厳しい状況に置かれているところがございます。そういう中で我々と同様、専門家の皆さん方が後世に記録を残すために努力を重ねておられる姿についてお話を伺うこと

になると思います。

我が国の公文書館制度はご存じのとおり私どもの開設から34年を経過した今日でもその重要性の社会的認知は必ずしも十分ではなく、人的な面、予算的な面でもまだまだ世界各国の中で決して優等生という状況にはなっておりません。皆さんとともに今後努力していく必要があるわけでございます。

このような意味で、今回外国からご参加いただいた皆さん方から世界の公文書館の状況を具体的にお話を伺って、必死に努力されている姿を耳にすることによって、日本の今日の状況を打破するための刺激になればと存じております。私どもはこういうことで関係者が知恵を出し合って、手を携え合って、力を出して、日本の状況あるいは世界の状況の中に少しでも明るい希望を持ち込んでいきたいと思っております。

本日の講演会は質疑応答を含めてわずか3時間という大変短い時間でございますけれども、我が国の公文書館あるいは関係者の公文書制度のさらなる発展に一つの大きなエポックメイキングの機会になることを主催者として心から祈念している次第であります。よろしく申し上げます。本当に今日は皆さんおいでいただきましてありがとうございました。